

学校教育目標	「生きる力にあふれる子」 ○主体的に問題に働きかけ、自分らしさを発揮しながら粘り強く解決していこうとする子を育てます。(知) ○互いのよさを認め合い、共に生きていこうとする子を育てます。(徳) ○自分や他者の生命を大切に、自ら進んで健康な生活をしようとする子を育てます。(体) ○地域に愛着をもち、自分から地域社会に関わろうとする子を育てます。(公) ○より広い視野で行動しようとする子を育てます。(開)				
	創立 50 周年 児童生徒数: 259 人	学校長 出口栄生 主な関係校: 横浜市立橋中学校	副校長 佐々木 唯吉	2 学期制	一般学級: 11 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	橋中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> ふ... 深めよう交流 じ... 自分からあいさつ の... のばそう今の力 は... 話し合って解決 な... 何度でもチャレンジ	橋中学校 今井小学校 仏向小学校 初音が丘小学校 藤塚小学校	○自己肯定感をもち、豊かに表現し、他者と学びあう子ども ・「自分づくりに関する力」をブロック小中一貫教育のテーマとして設定し、学校生活において力を発揮できるよう意識して取り組む。 ・教育活動を通して、自分らしさを発揮しようとする姿勢や、他者を理解しようとする態度を養う。

中期取組目標 ○一人ひとりを大切に、まちとともに歩む学校にします。 ・基礎基本の定着を図り、子どもの「考える力」を育て、学力の向上を図ります。 ・様々な「人」「こと」とのかかわりの中で、互いに「認め合う力」を育て、自己有用感を感じることができる学校づくりを行います。 ・子どもたちが安心して過ごせる、安全な学校づくりを行います。 ・家庭・地域とともに子どもたちを育て、人とのかかわり合いを通して、学びの充実を図ります。
--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力 担当 評価情報委員会	スキルタイムは、基礎基本の定着を目指し、児童の実態に合った内容や取り組み方になるように工夫する。国語科を中心に、めざす子どもの姿を明確にした授業づくりを行い、表現力の向上を図る。家庭学習では、児童の取組の様子をみとり、授業との効果的なつながりを意識して課し、家庭と連携して学習内容の定着を図る。
徳 豊かな心 担当 特別支援委員会	児童会活動の「あいさつ運動」を中心に、進んで気持ちのよいあいさつをする心を育み、人と人とのつながりを深める。縦割り活動(絆活動)を計画的に実施し、異学年交流の充実を図る。「特別の教科道徳」学習や様々な学校生活を通して、互いを認め合う心を育てていく。
体 健やかな体 担当 保健安全委員会	児童会活動、学級活動の中で児童が外遊びの楽しさやよさを実感できるような取り組みを年間通して計画し、外遊びを継続的に促す。委員会活動や学校保健委員会を中心に、健やかな心や体、食の大切さなどについて考える機会を設け、健康的な生活を送れるよう支援する。
公開 教育課程 担当 評価情報委員会	小中ブロックとめざす姿を共有し、学校での教育活動を通してカリキュラムを検証する。また、各学年で各教科・単元の評価規準を見直す機会を月1回以上設ける。校内重点研究や学年で教材研究を十分に行い、指導力の向上に努め、分かる授業・考える授業作りをめざす。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	「藤塚小いじめ防止基本方針」を基に、全職員でいじめ根絶に向けて取り組む。教職員全体で情報共有を行ったり、毎月1回以上のいじめ防止対策委員会を開催したりしながら児童の実態を把握し、未然防止、早期発見・解決に努める。いじめに関するアンケートを年2回以上行い、その結果を共有しながら児童の様子や心情を把握したり教育相談を行ったりして解決に向けて力を尽くす。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 衛生管理委員会	校内外の研究・研修を通して、学級経営や教科指導など教職員としての様々な指導力の向上に努める。特に、メンターチームでの活動においては、教職員全体で支援し、個々の指導力や全体の組織力を高められるようにする。また、互いに意見や考えなどを出し合い、よりよい働き方への策を見い出せるよう、日頃からのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築し、風通しのよい職場環境に努める。
児童指導 担当 特別支援委員会	YPアセスメントや生活アンケートを実施し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導の充実を図る。藤塚スタンダードをもとに共通した指導を行い、児童・保護者が安心できる環境を作る。また、定期的に見直し、指導のあり方について教職員全体で共通理解を図る。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	児童一人ひとりに寄り添う支援の充実を図り、誰もが安心して過ごせる環境を作る。児童支援専任・特別支援コーディネーターを中心として、様々な研修や情報交換などを定期的に行い、職員全体の特別支援に対する力を高める。家庭、地域また、他機関と連携しながら児童支援を行っていく。
地域連携 担当 保健安全委員会	年2回の学校運営協議会を軸に学校・保護者・地域が教育活動の目標を共有し、学校教育活動の推進に努める。地域コーディネーターや各ボランティアの方々と連携協力することで、人と豊かにかかわり、より良く生きようとする児童の力を育む。
担当	c10